

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第82号 (H30.5.19)

事務局：宮崎市生日台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 5月、さわやかな日々が続きましたが、宮崎では下旬になると梅雨の気配が感じられるようになってきます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

ザンビアでは、4月後半からマラリア蚊殺虫剤噴霧活動が行われ、エイズ予防活動としてのサッカー大会がニャンカンガで開催されました。

巡回診療の状況とあわせ、これらの活動を宮崎の放送局「**UMK テレビ宮崎**」が取材されました。**5月30日(水)の午後3時55分から約1時間、ドキュメンタリー番組として放送される予定**です。どうぞご覧ください。

(宮崎県以外の方は放送されないのをご覧いただけないのが残念ですが)

今回は山元香代子先生からの現地活動報告や巡回診療に参加した医学生さんからの報告です。どうぞご覧ください。

現地活動報告 (山元香代子先生から)

皆様いかがお過ごしでしょうか。こちらはいいお天気が続いています。4月23日から5月6日までテレビ宮崎のディレクターとカメラマンお二人が私たちの活動を撮影のため、ルサカに滞在されました。ルアノ・サンダラの巡回診療、4/27のマインガでの噴霧活動、5/4のニャンカンガでのサッカー大会に同行されました。この撮影にあわせて、櫻井さんに応援に来ていただいています。私は4月25日のルアノ行き後、かぜをひいて発熱し咳がひどく声が出ない状態になり、正直しんどかったです。

4月25日はルアノでの巡回診療。患者数は126名と多く、マラリア陽性は119名中22名(18.5%)と急に増加していました。殺虫剤噴霧の終了したマプランガからのマラリア患者が多く、頭を抱えましたが、マプランガは他の地域と比べ、蚊の繁殖源となる水たまりが多いとのこと。経過を見ていくしかありません。

三重大・藤田保健衛生大学の医学生4人が参加し、お手伝いしていただきました。また、テレビ宮崎のディレクターとカメラマンお二人が撮影のため忙しく動き回っておられました。

5月2日はサンダラでの巡回診療。昨年11月以来の6か月ぶりの診療でした。途中の川は水量が少なくなっていて渡ることができましたが、途中の道路は草が茂り道なき道をするような状況でした。

十分周知されていなかったらしく患者数は86名と少なかったのですが、マラリア陽性は81名中42名(51.9%)。サンダラ以外にルアノ郡との境界の村々からのマラリア患者が多くみられました。

道路状況が悪く、サンダラの殺虫剤噴霧は延期となっていましたので、5/11に境界の地域も含め実施することとしました。診療も一段落ついた16時過ぎに数人の家族連れが到着しました。ンジョニと言う村からで、朝4時に出て10時間以上歩いてきたと言われます。マラリアの子供を連れていました。

サンダラはルアノから更に車で1時間半走った奥にあります。まだその先に医療の恩恵からは程遠い地区がいくつもあります。これが現実です。



診療を待つ人々 (日陰に入っています)

5月9日はルアノでの巡回診療。患者数は98名。マラリア陽性は92名中7名(7.6%)で、前回の診療と比べ特に増加はなく、少し安心しました。

5月4日はニャンカンガでのサッカー大会。到着した時には人々があまり集まっておらず、どうなることかと思いましたが、徐々に選手が集まってきました。性病治療やエイズの検査の必要性などに関して説明した後、試合開始。女性2チームはネットボールと言う、バスケットボールとハンドボールを混ぜたようなゲームを、男子4チームはサッカーを実施。なかなか白熱した試合でした。HIV/AIDSの検査は7名中陽性者はいませんでした。

エイズ予防サッカー大会



4月18日から21日、27日から29日、ルアノでマラリア蚊の殺虫剤噴霧を実施。マインガ村には連絡が届いておらず準備がされていませんでしたが、何とか終了。サンダラは道路状況が悪く、到着できず5/11に延期となりました。

12月に事故にあった車は修理が終わって戻ってきて、ショックやサスペンションを新しいものに取り換えた後、昨年と同様またギアボックスの調子が悪くなり、動かなくなりました。再度ギアボックスを交換するには30万円近くかかると言われます。別の整備士にみてもらい、今後どうするか判断することとしました。その間サンダラ行き、噴霧活動にはレンタカーを借りています。もう1台のランクルは何とか走っています。



噴霧の様子を撮影する放送局スタッフ

なかなか計画通りには活動は進みませんが、がんばってやっつけようと思います。来週はニャンカンガの噴霧活動が予定されています。こうしていろいろな活動が実施でき、マラリアの患者数が減ってきているのは、みなさまからの支援のおかげです。心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

活動報告 巡回診療に参加して(医学生の皆さんから)

私は臨床実習の一環としてザンビアを訪れ、4月25日のルアノへの巡回診療に参加させていただきました。まず前日の24日に、コンテナに薬などを詰め込む作業を行い、25日は早朝に出発してルアノへ向かいました。ルアノへの道のりは遠く、しかも大半が舗装されていない凸凹の道でした。一番近いヘルスセンターへ寄って行きましたが、ルアノから車でも大変遠く、自力で受診することが困難であることがわかりました。ルアノへ近づくと道の脇で山元先生の診察を待つ患者もいました。山元先生はそういった患者の一人ひとりを診察し、その後巡回診療を行う建物に到着しました。巡回診療では、私は体重・体温・血圧の測定とカルテへの記入、薬の処方、マラリア検査、尿検査を手伝わせていただき、その後は予診と診察をさせていただきました。当日は非常に多くの患者が来ており、皆何時間も歩いて来ているとのことでした。彼らは私がカタコトのトンガ語で挨拶すると笑いながら挨拶してくれました。働くスタッフもまた遠くから来ており、活動を支えていました。スタッフの方々は患者の言葉を通訳してくれたり、普段どのように活動しているのかを教えてくださいました。山元先生がいない時にも現地スタッフのみで活動していると聞きましたが、そうなるまでに現地スタッフの教育もきっと大変な仕事の一つだったのだらうと思いました。

活動に参加させていただく中で感じたのは、場所が変われば医療は大きく異なるということです。日本で実習をしていると日本の環境が標準のように感じてしまう時がありますが、日本とザンビアではよくある疾患も医療資源の状況も全く異なり、またザンビア国内であっても都市部と郊外では全く異なると感じました。医療資源が限られた中では、ほぼ問診と身体診察のみで診断、治療を行わなければならない、検査に頼らない診察の力が必要になるということも強く感じました。今回はルアノ地区への巡回診療に参加させていただきましたが、ルアノ以外にも同じように医療機関の無い状況の集落が多くあるのだと思います。ザンビアだけでなく、世界中で多くの人々が医療を受けられない状況の中で生活しているのだろうと改めて思いました。今後日本で働くとしても、このことを忘れずに医療を行なっていきたいと思いました。

山元先生が、「一番必要なのはしっかりとした臨床の力、経験であり、それに対して自信を持っているからこそ辛い状況の中でも活動を続けてこられた」とおっしゃっていたのが非常に印象深く、世界のどこで医療活動を行うにしても、まずは臨床医としてのしっかりとした力を身につけるよう言ってもらいました。臨床医として自信を持って医療を行えるように、今後日本で実習や研修に励んでいきたいと思えます。



きれいな夕焼け空

最後に、私達を受け入れていただいた山元先生、スタッフの方々に感謝しています。この経験を医学生の時点でできたことは大変貴重でありがたいことだと思っています。本当にありがとうございました。

三重大学6年小嶋みどり

大学の選択実習でザンビアに行くことを選んだのは、先輩方から Mobile clinic と山元先生のお話を伺ったからです。異国で、しかも日本とは大きく違う環境で苦しんでいる人々に医療を届ける活動は、将来医師になるうえで自分の糧になると感じ、非常に良い経験をさせていただきました。

ルアノ地区へ行く前日、先生のご自宅に伺い荷物や薬品のパッキングを手伝わせてもらいました。巡回診療から参加するのではなくパッキングから参加させていただいたのは大きく心に残ったものの1つです。なぜなら日本ではあまり器具や薬のストックについて考えたことはなかったのですが、限られた資金の中でできるだけものを集めて、そしてどう使うか、自分たちはそれを使う側の人間で、この1つ1つが患者さんの元気につながるということを強く感じたからです。また、先生のこれまでの活動を伺い、医療だけではなく井戸を掘ったり、虫よけスプレーを家に散布することなど様々な活動についても教えていただきました。その際に先生に見せていただいた、川の土を掘ってわずかに出てくる泥水を集めて飲み水にしていた動画や写真は、目に焼き付いています。

翌日の早朝に出発し、日本では考えられないような未舗装のオフロードを進んでいく途中で、道端に患者さんが座っていました。この日に先生が巡回診療に来ることを知っているの、待っていたと聞きました。車から降りて診察をし、薬を処方したいがその薬が荷物の奥の奥にあり、今すぐ取り出すことができないので、帰りしなに渡すということになりました。日没前には渡せるということでしたが、ルアノ地区での患者さんのあまりの多さに渡すことができたのは8時を過ぎていました。しかしその患者さんはまだその場所で先生を待っていて、薬をもらうととてもうれしそうにしていました。それほどに医療が行き届いてなく、必要とされていることを痛感しました。

ルアノ地区に到着すると、多くの患者さんが先生を待っていました。レンガやコンクリートブロックで作られた建物は、この巡回診療のために現地の人々が作ったものだと聞きました。そして、他のボランティアの方々と一緒に血圧を測ったりカルテを整理したりしました。また、先生と一緒に診察をさせていただいたことは非常に良い経験になりました。肺炎や高血圧、マラリアやヘルペスなど様々な患者さ

んがやってくる中、ちゃんと薬を飲まない人や、先生に甘えているようにも見える患者さんもいました。しかし先生の、正しく服薬することの重要性を丁寧に教えている姿を見ると、その使命感や、こうした説明や啓発で、本当に多くの人が救われているのだろうと感じました。

今回同行させていただいて最も感じたことは、当たり前のことを当たり前だと思って何も感じなくなっているということでした。病院には様々な機器があって検査もたくさんすることができるし、ガイドラインをみれば自分がどうすればいいのかがわかります。しかし、山元先生の姿を見ているとそれだけに頼るのではなく、医師としてできることはたくさんあり、医師になるとはどういうことなのか、医療を提供するということはどういうことなのかを考えることができました。今回の経験は自分の人生ではかけがえのないものになりました。経験する前と後で自分が変わったと感じています。これから研修医、専修医と進んでいきますが、先生が繰り返し仰っていた「まずはちゃんとした医者になること。」を胸に刻んで励んでいきたいと思います。Mobile clinicに参加させていただき、本当にありがとうございました。



学生さん、スタッフと撮影

藤田保健衛生大学医学部 6年 島稔樹

賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

- ・新しい事業年度（事業年度は1月から12月）となりました。賛助会費（個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上）及びご寄附（金額は問いません）のご協力をお願いします。
- ・当法人は認定NPO法人であり、ご寄附（賛助会費含む）いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書（賛助会費も寄附金と同様税控除の対象）をお届けします。
- ・ご不明の点は日高（info@ormz.or.jp）までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替

口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名：NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ）ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

*平成30年もどうぞご支援のほどよろしく申し上げます